

内 容：①秋枝管理について、②たい肥の施用について



秋枝管理について（説明）

次の年に使用しない古い結果枝を秋（10月15日以降）に切ることで、新しい枝を発生させる管理について、具体的に示しながら切る位置を説明した。（切る適期になっていないため、実際には切っていない）



樹勢のやや低下した梨樹にたい肥施用

ここ1, 2年で樹勢が低下している50年生の新高で、幹から1.5~2m離れた場所に深さ40~50cm、直径40cm程度の穴を3か所掘り、根の発生を調べた。



幹から1.5m離れた場所の根の状態

太い根が3本、そのほかに細かい根が多く出ていた。たい肥を施用することで、次年度養分を吸収する細根が発生してくる。



たい肥の埋め戻し

1穴に牛糞たい肥1袋（20kg）、化成肥料とようりんをそれぞれ軽く一掴み施用し、土と混ぜて埋め戻した。